

平成 27 年度国土地理協会学術研究助成報告書

各地の展望図の記録と、地図ソフトを用いた  
記載内容の点検・評価

田代博（明治大学非常勤講師）

## 各地の展望図の記録と、地図ソフトを用いた記載内容の点検・評価

田代博（明治大学非常勤講師）

### 1. はじめに

本研究の目的は次の通りである。

日本は都会からも山がよく見える国である。国土の約 7 割が山地、丘陵地であれば当然のことであり、「山都」「望岳都」という言葉が生まれるゆえんである。展望の得られるところには至るところに様々な展望案内図（以下、展望図と呼称。写真、絵画的表現を含む）が設置されている。

しかし、こうした各地にある展望図について形状や描画内容を記録したものは見当たらない。何より問題なのは、その描画内容が何らチェックされることなく野放しになっていることである。精密なものもなくはないが、まるで判じ物のようで、現地との照合がまるでできないものまである。これでは展望図の役割を果たしていない。

注記内容にも問題がある。著名な観光地にある施設や、行政が作成したものの中にも致命的なミスがある。それは特に山名について多く見られる。

山の名を知ることは山に親しみ、自然を身近に感じ、ひいては防災意識を高めることにも通じ、今の時代には不可欠のことである。そういう観点からも、このような展望図には、正確で適切な注記が望まれる。観光立国をうたう現在の日本では外国人に対する配慮も必要である。

多くの人々が容易に訪れる主に都市部に設置された代表的な展望図を調査、確認、点検、評価し、山名などの誤りの指摘や、改善の方向を提示する。そのことを通して、景観に対する正しい認識をもつことができる環境整備の実現に資することを目的として、本研究を行うものである。

なお、個人的には山岳展望図の点検は、1970 年代半ばより行っており、地図関連の雑誌（「地図の友」誌など）や山岳雑誌（「山と溪谷」「岳人」など）に発表していた。それらの蓄積をもとに、1987 年より共編著『展望の山旅』（実業之日本社）シリーズを発行し、啓蒙（啓発）活動を続けてきた。

その後、パソコンソフトなどの普及により点検、確認作業が行いやすい状況が生まれてきたので、ウェブサイトなどを通して発信を続けてきた。また、月刊「地図中心」誌（日本地図センター）2015 年 4 月号より、「田代博の展望図採点紀行」という形で連載を始めている。地方紙や全国紙の地方版で取り上げられ、団体からの問合せも来はじめている。

### 2. 調査地域

水戸市（茨城県庁展望ロビー）、前橋市（群馬県庁展望ホール）、千葉市（千葉県庁展望

ホール)、東京都(都庁展望室(南、北))、横浜市(横浜ランドマークタワー、横浜マリ  
ンタワー)、新潟市(新潟県庁展望回廊、Befco ばかうけ展望室)、佐渡市山稜部、金沢市  
(石川県庁展望ロビー、卯辰山公園見晴らし台、同望湖台、金沢城公園辰巳櫓跡、同丑寅  
櫓跡)、福井市(足羽山、八幡山展望台、AOSSA 8階展望ホール)、松本市(松本駅東西  
自由通路、山と自然博物館展望室、松本城天守閣)、伊那市(いなっせ)、御殿場市(御殿  
場駅、深沢城跡付近)、浜松市(アクトタワー展望回廊)、名古屋市(東山スカイタワー、  
名古屋テレビ塔、ミッドランドスクエア(スカイプロムナード))、京都市(京都タワー  
展望室、京都駅ビル空中径路)、大阪市(あべのハルカス(ハルカス300)、梅田スカイ  
ビル(空中庭園展望台)、通天閣(展望台・特別展望台))、中央自動車道(下り)PA  
(釈迦堂、初狩、八ヶ岳)、長野自動車道(下り)SA(梓川)。

### 3. 総論

展望は各地で異なるが、展望図もまさに展望地点の数だけの違いがある。今回32箇所の  
展望図をチェックして思うことは、**よくもこれだけ問題があるものだ**ということである。  
展望図一つずつに問題点がある。

具体的には各論で詳述するが、まずは全体的な特徴(問題点)を述べ、それに対応した  
提言を記す。

全体的な特徴(問題点)

- (1) 実景通りの図になっていない。
- (2) 大きさ、設置位置が必ずしも適切でない(見づらい)。
- (3) 古い(劣化している)。
- (4) 注記が不適切(見づらい、少ない、誤っている)。
- (5) 展望範囲を示す地図がない。

提言

- (1) 実景通りの図にする。

展望図設置場所に立って、展望範囲がその通りに展望図に収められているのが基本であ  
る。しばしば駅などに見られる道案内の地図が、杓子定規に北を上にしてしているために、首を  
傾げないと現地と一致しないことがある。展望図の場合、そのような例はないが、それで  
も、そこからは見えない方面が描かれていたり、見えている地域が切れている場合がしば  
しばある。そこから普通に(首をひねったりしないで)見える範囲の展望図にする必要が  
ある。このような、極めて当たり前のことを、提言の最初に記さざるを得ないというのは  
誠に残念なことである。

- (2) 展望図と実景が一致するように、展望図の大きさや設置位置を考える。

上記(1)と関連するが、実景通りの図を描いても、視点により見え方が異なってくる。  
大人が立って見下ろした時に、展望図と実景が一致するように、展望図の大きさと設置位  
置(高さ)を考える必要がある。この図はどこを見ているのかを「脳内変換」をすること  
なく、すぐにわかるようにしなければならない。

端的に言えば、小さな展望図にワイドな実景を描いてはいけないということである。ま

た、眺かなければ見えないような位置に設置してはダメということである。

(3) 数年で更新するという前提で展望図を作成する。

特に都市部においては、市街地の変化は著しい。数年経てば、実景が大きく異なるのは不思議ではない(社会的劣化)。一方、展望図は見通しのよい場所に設置するので、特に南面の場合、太陽光を浴びて画像の劣化が進む(自然的劣化)。室内においてもそうだから、屋外の展望図の場合、二重の劣化は絶対に不可避である。

そのことを踏まえ、一度作れば終わりとするのではなく、数年のサイクルで作り直すという計画を立て、作成・更新する必要がある。

古くなった図は、その時点での案内図として十分な役割は果たさないが、歴史の証人として、地域の景観の変遷を辿るときには、極めて重要な資料になる。定点撮影の発想である。従って、タイルに焼き付けるなど、豪華ではあるが更新ができない方式は原則としてとるべきではない。差し替え、更新が可能なスタイルを追求する必要がある。

(4) 注記はどこを指しているかが分かるようにし、量も煩わしくない程度にそれなりに書き入れる。

注記は、その場所まで引出線を引くのが一番わかりやすい。特に山頂や、遠景の建物の場合はそうである。手前の、広がりのある場所の場合は、その上に文字を置くということもありえるが、図の上に重ねると、特に大きな文字の場合、隠れてしまったり、どこを指しているのがわからなくなる。

その一方で、山脈、山系のように、一定の広がりがあるにも関わらず引出線で広がりのある注記を載せている場合もある。これは引出線の適切な使い方ではない。

注記は引出線が基本ではあるが、ピンポイントの地点を表示するのにふさわしい方式であり、注記の内容によって表現方法を変える必要がある。

(5) 展望範囲を示す地図を添える。

展望図は実景との照合が基本であるが、地域の景観を理解するには、どの方面を見ているのか、見えている範囲を地図でも示す必要がある。小縮尺の概観図でよいので、展望図に隣接して設置することが望ましい。

※ 展望の状況の違いによる複数の展望図の設置を！

詳細な展望図があっても実際にその通りに見える時は限られている(どうしてもっと鮮明な写真を使わないのだろうかと思うものもある)。

展望図の基本は、可能な限り詳細な(遠くまで見える)図を用意すべきだが、その時の気象状況(視程)に応じた展望図があってもよいのではないか。

夜景が併設されているケースはあるが、これを視程により区分するのである。晴天用、曇天用とでも言えばわかりやすいだろう。

同じ展望図を何枚も並べている所も多くあり、スペース的には可能などころが多い。ごく一部であるが、ディスプレイで表示するところはあらかじめ何種類か作成しておけば技術的には不可能ではない。要は、「その気」「やる気」の問題で、展望の意義をどのように考えているかという理念の問題に帰着するのだろう。

#### 4. 各論

誌面に限りがあるため、概略に留める所と、詳述する所と種類の異なる記載になることをお断りしておく。

##### 1. 茨城県庁展望ロビー (水戸市) 25階 フロア全面 無料



<県庁>

<広々としたスペース>

<西側展望板>

(概況)

全体として良好な展望台。写真に引出線、番号による注記。見下ろす方式。

一部の展望図に問題あり。

東1基、北2基、西1基、南2基。

作成協力者の記載がある。

作成協力:茨城県北ジオパーク推進協議会・茨城県山岳連盟

(問題点)

1. 写真の繋ぎ方において水平が保たれていない。
2. 写真自体がいささか不鮮明(特に遠景)。
3. 西側および北側の1基が、その場所からは見えない図が描かれている。特に西側のそれは、エレベータを降りて最初に目にするものであり、また茨城県の象徴とも言える筑波山が見えるようになっているにも関わらず、そこからは見えないのである。

▼北側の西よりの1基。この位置からは、左側1/3近くは見えない。日光連山の拡大写真があるのに、注記がない。なお、日光連山はこの位置からは見えない。



(改善案)

1. 条件のよい時に写真を取り直す（繋ぎ直す）。
2. 設置場所から見える通りの展望図にする。現行は、北2基の内、西側の展望図が1/3程度実景と合わないので、これは必ず直す。
3. 写真撮影時または展望図作成時を記載する。

(備考)

東側の展望図のカバーにはひびが入っている。3. 1 1の際に倒れて生じたものである。その時の様子が写真入りで説明してある。防災の基本の一つは「忘災」にならないようにすることである。災害の記憶を風化させないためにあえて直さないで残すのは意義のあることと思う。

(参考) 「地図中心」2016年7月号「田代博の展望図採点紀行 その13 茨城県庁」

(2016年4月29日調査)

## 2. 群馬県庁展望ホール (前橋市) 32階 フロア全面 無料



<外観>



<展望ホール>



<展望板>

(概況)

全体として良好な展望台。展望図も詳しいが（山名注記は概ね妥当）、注記の方法等に問題がある。写真に引出線による注記。

東、北、西、南各1基。

監修：群馬県山岳連盟。

(問題点)

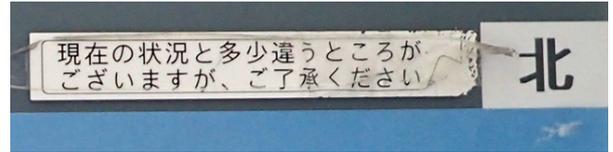
1. 展望板が低い。膝をつかないと見づらい。
2. 写真の繋ぎ方において水平が保たれていない。
3. 注記のない山城がある。



左側は赤城山であるが、この展望図（東側）には、注記が記載されていない。

(改善案)

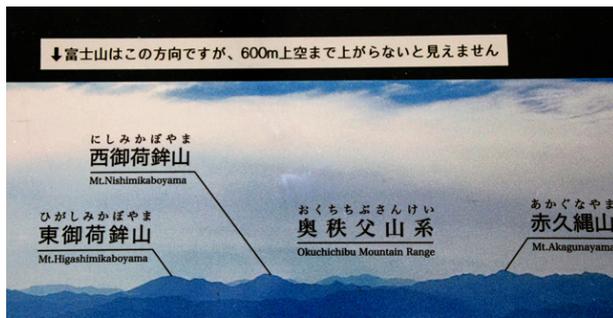
1. 可能であれば、立って見下ろして眺める時に不自然な姿勢にならないように、もう少し高い展望板に作り替えるのが望ましい。
2. 山名注記は、四基の展望図で重複のないようにしているようだが（東側の図に赤城山がないのは北側に記載があるから）、各展望図は隣接しているわけではないので、それぞれの図で完結させるべきである。つまり重複をいとわず山名を記載すべきである。
3. 遠くない内に作り替えを期待したい。近景を念頭においていると思うが、このような記載もあるのだから（いつまでもこのような但し書きがあるのは好ましいことではない）。



4. 写真撮影時または展望図作成時を記載する。

(備考)

このような注記（富士山はこの方向ですが・・・）は好ましい。



(2016年4月23日ほか調査)

### 3. 千葉県庁展望ホール （千葉市）19階 四方 無料



<県庁>



<展望ホール>



<展望板>

(概況)

展望台としては良好。

各方向に展望図設置。写真に注記を貼り込む形式。写真の劣化が著しい。



- 2. 富士山は、注記だけでなく、実写を拡大して別枠で表示するなどの工夫が望まれる。
- 3. 注記は、引出線がよいか、現行の貼り込み式がよいか、検討の余地がある。



(備考)

点字による注記が併記してあるのは他に例を見ない。この特徴である。これだけは評価できる。



(2016年4月13日調査)

4. 都庁展望室（南、北）（新宿区）45階 南は全方位、北は一部レストランで遮られる。  
無料



<外観>

<展望室>

<展望図>

(概況)

概ね良好な展望台。

全方位を望める南展望室は6箇所展望図（内2箇所は同一内容）。

窓の下と、上にサイズは異なるが（上が大きい）、同一内容の展望図。



<上>

<下>

写真に注記を貼り込む形式と番号で示す形式を併用。多言語表記。

(問題点)

1. 注記、特に山名の注記があまりに少ない。東京は「望岳都」として山のよく見える都市として知られているにも関わらず少な過ぎる。

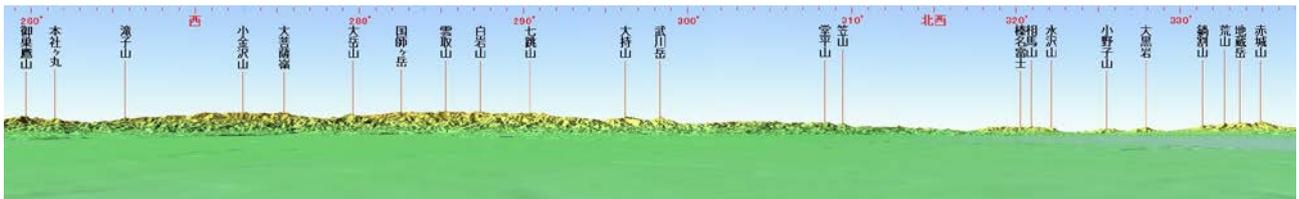


西～北を展望しているこの図を例に考えてみよう。

これだけの大展望の写真であるが、山岳に関する直接の注記は、②奥多摩方面 ③秩父方面のみである。注記自体少なく、①の甲府方面という表現も曖昧である。

三ツ峠山方面から赤城山までの範囲、水平方向の角度にして75度近い範囲が示されているので個々のピークを指摘する事は難しいが、それでも以下のCGに示す程度の山名はあってもしかるべきだろう。

▼カシミール3DによるCG。40mmレンズで作成し結合。



2. 他県のそれと同様に、写真の繋ぎ方において水平が保たれていない。

(改善案)

1. 写真撮影年次が記していないが、2016年度の事業として、撮影し直し、詳しい山名などの注記をつけた展望図の作り直しを要望する。外国人を含め、来訪者が非常に多い展望台である。それがこのような状況ではいささか嘆かわしい。オリンピックも意識して（夏は遠望は利かない時期ではあるが）、首都東京にふさわしい精細な展望図の作成は緊急の課題と思われる。

(備考)

1. 都庁の展望図の問題点については、藤本一美氏が「東京新聞」2013年3月26日夕刊一面で詳しく述べている。
2. 注記入りの展望パンフレットは、外国人向けには用意されているが、日本語版は常備されていない。膨大な部数になるだろうからやむを得ないかもしれないが、捻出できない金額ではないと思われるので、何らかの形での刊行を期待したい。

(2016年5月2日ほか調査)

5. 横浜ランドマークタワー（横浜市） 69階 四方 有料



〈外観〉



〈展望フロア〉



〈展望図〉

(概況)

横浜最高所の展望台。

北西、北東、南東、南西の四面窓上部に設置。

写真に引き出し線で注記。

日中と夜間の展望図の併設。

(問題点)

1. 山名注記が少ない。

しかも、数少ない注記が誤っていたが、新聞などの報道を受けてか、最低限の訂正がされた。しかし、優れた景観に釣り合うだけの注記にはなっていない。

▼誤っていた図

高尾山の位置に注目



▼訂正された図

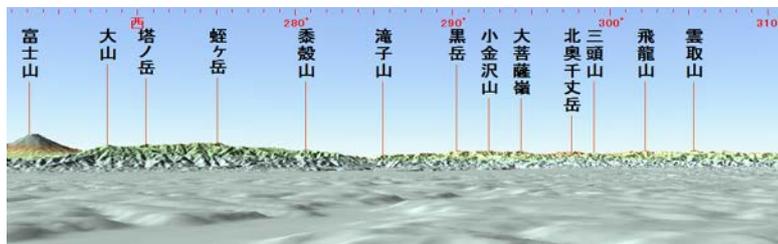
あくまでも高尾山のみ



(参考) 「地図中心」2015年10月号「田代博の展望図採点紀行 その7 横浜ランドマークタワー」の小文より

…ここからは北関東の山なども見えますが、目玉は富士山と丹沢、奥多摩方面の山です。しかしご覧のようにあまりに少ないのです。丹沢山地は、最高峰蛭ヶ岳の位置に指示線が来ていますが（厳密には少し左にずれています）、せめて大山は入れるべきです。

表尾根、大倉尾根が交差する塔ノ岳も欲しい。何と云っても横浜から神奈川県の上を見ているのですから。カシミール3DによるCGの山名は、この程度は欲しいというものを描いています。



カシミール3DによるCG

高尾山の注記を見てみましょう。指しているのは大菩薩の山並みです。またこのように稜線を作ることはありません。水平位置も高さも間違っています。

高尾山は、知名度抜群のためか、都内の多くの展望台では必ず注記があります。しかし、標高 600m弱であり、奥の山並みの下になりとても識別できるものではありません。ランドマークタワーからも同様です。

秩父山地はどうでしょうか。これは間違いではありませんが、秩父山地は、広範囲にわたる山域なので、このようにピンポイントで示すには不適切です（丹沢山地も同様です）。念のため『世界大百科事典』によれば「関東山地の中核をなす山地。長野，山梨，群馬，埼玉，東京の都県境付近を占める」となっています。

■その後の様子と要望など

神奈川新聞への投稿では動きがありませんでしたが、前回ご紹介した東京新聞の記事（2015年7月7日）には、高尾山については作り直す予定とありました。実際に直っているか、9月上旬に訪れてみました。

確かに高尾山だけは直っていました。引き出し線を延ばし、水平位置も正しくなっています。新聞記事の力は素晴らしいですね。やる気になればできるのですから、山名注記も増やして欲しいところです。

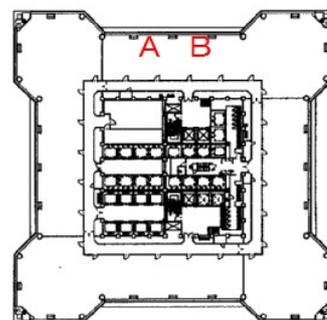
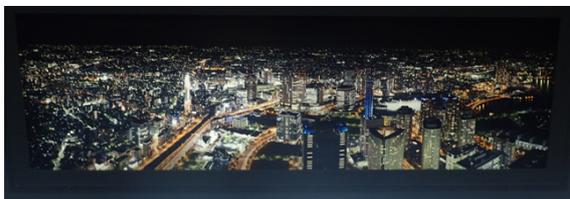
(改善案)

1. 山名注記を詳細にする。
2. 北西面の、日中の写真と夜景の写真の配置を逆にする。

Aの位置にある日中の写真



Bの位置にある夜景の写真



(<http://toolbiru.web.fc2.com/cj4n/d-data-n1.htm> より)



Aの位置からは、壁が邪魔をして、富士山を望むことができない。富士山を主に見る場所は、南西側のスペースであるが、エレベータをおりて最初に見る場所はこちらである。夜景では富士山は見えないので、入れ替えても支障は全くない。富士山がどれか指摘できない来訪者はいないだろうが、実景と展望図を一致させるという大原則を踏まえて入れ替えを要望する。

### 3. 視程に応じた展望図の工夫など

足下には経年変化を示す写真が掲示してある。このようなスペースはあるので、視程に応じた異なった見え方の図や、北関東などの容易には見ることの難しい山岳の写真などを適宜配置することを考慮して欲しい。

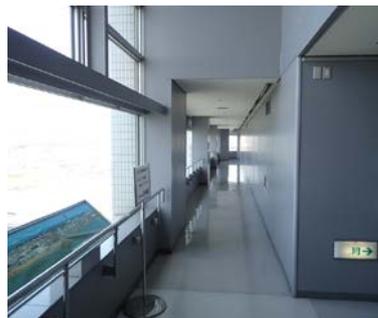


### 4. パンフレットに詳細な山岳展望図を

展望フロアにあるパンフレットは時期により変更するようだ。現在のものには山岳の案内図は掲載されていない。しかし、横浜は南アルプスも望見できる「望岳都」である。横浜最高所の展望台にふさわしい山岳展望図が記載されたパンフレットを期待する。

(2016年1月25日ほか調査)

## 6. 新潟県庁 (新潟市) 18階展望回廊 四方 無料



<外観>

<展望回廊>

<展望図>

(概況)

良好な展望台。

四面に展望図。南面二箇所、東、北、西各1箇所。

写真に注記を貼り込む形式。横168cm、縦32cm。見下ろす方式。

ワイドで、見た範囲がほぼ同じように見えるようになっている。

(問題点)

1. 地名がやや抑制的。

2. 写真の繋ぎに若干の歪みがある。
3. 南面は日を受けて色あせが見られる。

(改善案)

1. より明瞭な気象条件の時に取り直し、作り直しを要望する。地名を増やし、写真撮影年次の記載も必ず。スペースは広いので、季節に応じた（四季でなくてもよいが）展望図の設置を考慮して欲しい。
2. 眺める範囲を展望図でもストレスなく見ることができるが、繋ぐ際に少し歪みがある。水平位置の維持に留意する必要がある。
3. 配布できる案内図を用意する。

(2016年4月23日調査)

## 7. Befco ばかうけ展望室 (新潟市) 31階 ほぼ四方 無料



<朱鷺メッセ>

<展望室の案内>

<展望図>

(概況)

複合一体型コンベンション施設の朱鷺メッセ 31階（地上約 125m）に位置する展望室。「日本海側随一の高さを誇っております。新潟市街地はもちろん、日本海、佐渡島、五頭連峰などの景色を一望できる 360 度の大パノラマです」（会社のウェブサイトより）。

各方面に展望図。見下ろす方式。

写真に注記を貼り込む形式。

注記量は多くなく、とくに山岳は非常に少ない。

(問題点)

1. 地名が少ない（特に山岳）。
2. イベント会場として使用することがあるため、その時はかなりの部分が立ち入れなくなる。

(改善案)

1. 地名（山名）を充実させる。
2. エレベーターホールからは飯豊山方面が見えるので、ここに新たに展望図を設置すれば、イベント時への対応も可能になる。

(備考)

ユニークな名称は、命名権を得た地元の栗山米菓が、ヒット商品の煎餅の名にちなんで 2009 年に「朱鷺メッセ展望室」から変更したもの。名称の好悪は感性によるが、「ばか」が含まれる正式名称には違和感を覚えざるをえない。 (2016年4月23日調査)

## 8. 佐渡島 山稜部

### 8-1 交流センター白雲台 (佐渡市 <sup>なかおき</sup> 中興) テラス 無料



<外観>

<テラスの展望図>

<拡大>

#### (概況)

交流センター白雲台は大佐渡スカイラインの「峠の茶屋」として2010年にオープン。ログハウス風の建物で、トレッキング客の情報拠点となる。テラスに展望図を設置。「佐渡島の地形を一望でき、南に真野湾、西側に両津湾、快晴の時には北アルプスまで望める」。

(<http://www.walkerplus.com/spot/ar0415s79590/>) 閉店時にもテラスには入ることができ、展望図を見ることができるのは良い。20世紀最大のパノラマ画家と言われたオーストリアのベラン氏のタッチを彷彿とさせる描画はなかなかのものである。

紙媒体は売り物を含め用意されていないのが残念である。

(2016年5月14日調査)

### 8-2 ドンデン山荘 (佐渡市ドンデン高原) デッキ 無料

#### (概況)



<ドンデン山荘>

<展望図>

<折衷方式の描画>

ドンデン山荘は、大佐渡トレッキングコースのほぼ中間部に位置。オープンは2005年。「特に山荘デッキからの眺望は・・・日本海はもちろん、朝日や漁火、遥か本土の山並みを一望しながら、大自然を相手に静かな時間をゆっくりと過ごせる」(山荘のウェブサイト)という良好な環境にある。

展望図は、白雲台のそれと似ているが、タッチはやや荒い感じである。また、近景は実写、遠景を手書きにするという折衷方式が特徴である。あり得る描き方だが、今回の調査の中では唯一の例であった。

(2016年5月14日調査)

9 石川県庁（金沢市） 19階展望ロビー 四方 無料



〈石川県庁〉

〈展望ロビー〉

〈展望図〉

（概況）

「東西南北ガラス張りの窓からは地上約 80m からの景色を一望できます」（県庁ウェブサイト）。

各方面に設置。写真に注記を貼り込む方式。見下ろす方式。

山が写っているのは、北、東、西。メインは東になる。

左右に動画（音声）の流せるディスプレイ設置。

（問題点）

1. 撮影年次が記していないが、実景との乖離が見られる。
2. 注記文字が大きいのは良いが、いささか大きすぎて、どれ（どこ）を指しているのかわからない（例：野田山）。地元の人には自明の著名な山かもしれないが、外来者には見当がつかないので、指示線を引くなり、文字をもう少し小さくするなどの工夫が必要である。
3. 著名な山域であるが、他県になると簡単にしか表示されていない（例：立山連峰）。担当者に尋ねたところ、行政が異なるのでと、文字通りのお役所的回答があった。



（改善案）

1. 写真を取り直し、山名注記は引出線にしピンポイントで指摘できるようにする。撮影（作成）年次は必ず入れる。
2. 他県であっても、著名な山域については詳しい説明図（拡大図）を添える。白山まで約 50 km、それに比べれば立山は約 90 km と遠くはなるが、十分視認できる距離である。また、展望図には写真も含め記載はあるのだから不自然ではない。
3. 配布できる案内図を用意する。

（2016 年 4 月 6 日調査）

## 10 卯辰山公園 (金沢市) 屋外 無料

(概況)

金沢市にある山で、金沢城から見て東(卯辰の方向)に位置するので、この名がある。日本の歴史公園100選に選ばれている。展望ポイントが2箇所ある。

### 10-1 見晴らし台



<見晴らし台標識>

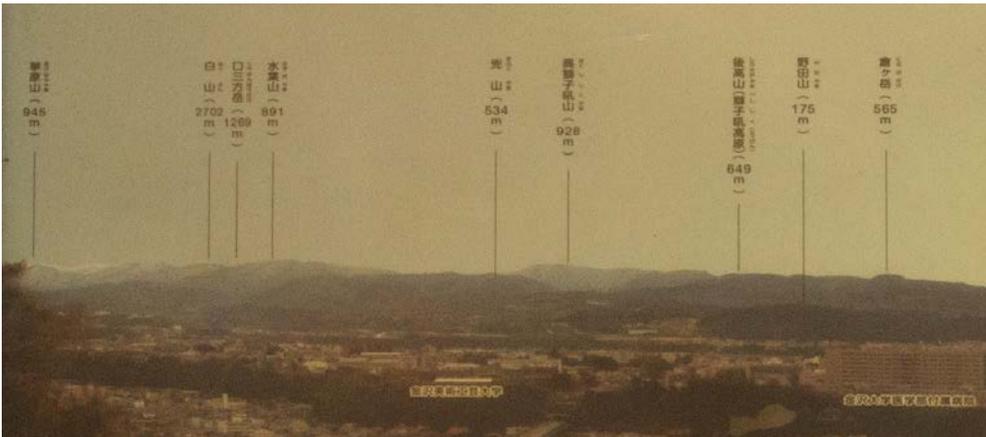
<見晴らし台>

<展望図>

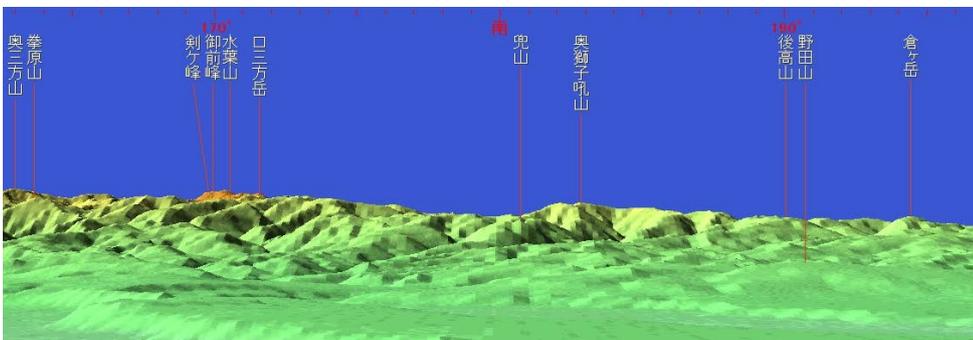
(概況と問題点、改善案)

展望図はいさかか残念な状況である。

写真に山名注記。ルビと標高記載。半分は市街地であり、いかにも注記が少ない印象を持つ。また、屋外への設置であり、色の劣化が進んでいる(設置年の記載はない)。



水葉山、口三方岳については、逆と思われる。また白山についても最高峰などが望めるので、明瞭な写真が欲しい。



(カシミール3Dによる)

## 10-2 望湖台



〈標識〉

〈海側展望図〉

〈山側展望図〉

海側（市街地側）と山側を見る2つの展望図が設置。

山側は、その位置からは樹木が邪魔をして見る事ができない。

コンクリート製の見下ろす形式。イラストに引き出し線で山名を示す方式。

イラストは精密感はないが、十分判断はできる。

注記はかなり詳しい方である。標高も多くはセンチメートル単位まで記してある。



海側の方は写真に適宜注記を加えたもの。2003年7月撮影。設置がいつかは記載していないが、かなり劣化が進んでいる。屋外であるのでやむを得ないが、このままでは誰も見向きもしないだろうことが予想される。

(2016年4月6日調査)

1 1 金沢城公園（丑寅櫓跡、辰巳櫓跡）（金沢市） 屋外 無料



〈丑寅櫓跡の展望図〉



〈辰巳櫓跡の展望図〉

（2016年4月6日調査）

1 2 足羽山（福井市） 無料

（概況）

福井市で一番の展望ポイントは<sup>あすわ</sup>足羽山の福井市立自然史博物館の屋上である。残念ながら調査日は休館日であり、招魂社の手前の展望ポイントで市街地の一部を望むのみであった。展望図があるが注記は基本的に施設名のみで、山岳は無い。



〈展望図〉

（2016年4月25日調査）

1 3 八幡山展望台（福井市） 屋外 無料



〈展望台〉



〈展望図〉

(概況)

足羽三山は福井市南西端に位置しており、足羽山（116.5m）、兎越山（93.2m）、八幡山（139.5m）からなっている。三山の中で一番標高が高い八幡山の山頂は公園になっており、展望台が設けられている。公園入口には駐車場があり、車で登ることができるため、市内有数の展望スポットと言われる。しかし、調査時は閑散としており、年配のタクシー運転手氏も、ここに来たのは学生時代以来と語っていた。

展望図は古典的なペンキ絵によるものだが、注記量はそれなりにある。

(問題点)

設置者が記されておらず、描画にいささか精密感が欠ける。

(改善案)

折角立派な展望台があるので、しかるべき組織でリニューアルする方向での検討が望ましい。その際は、可能な限り精密な描画の展望図にする必要がある（現行の「味」が残せればベスト）。

(2016年4月25日調査)

#### 1.4 A O S S A（福井市）8階展望ロビー 東面 無料



<A O S S A>

<展望板>

<展望図>

(概況) A O S S Aは福井駅東口再開発ビル（手寄地区再開発ビル）の愛称。駅のすぐ近くにあり、その8階にある展望ロビーは公共の施設で唯一の展望スポットと言って良い。

(問題点)

展望図が描かれている「板」が狭く、横幅が十分にとれていない。そのために図が小さくなり、現地との対応が非常にしづらい。

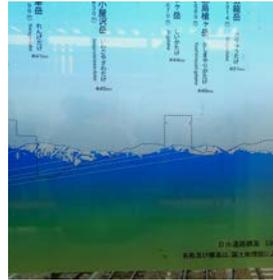
(改善案)

展望ロビーにはスペースは十分あるので、展望ロビーの名にふさわしいワイドな展望板に作り直すべきである。

地名注記は現行よりもう少し増やしたい。

(2016年4月25日調査)

1 5 松本駅東西自由通路（松本市） 北、西面 無料



<北側>

<北側の拡大>

<西側>

（概況）

松本駅東西自由通路は 2007 年に開通。側面全体にガラスを使用して眺望を確保した開放的な構造になっている。北側と西側（突き当たり）に展望図が設置されている。

（問題点）

西側は、窓ガラスに貼り付ける形式で見たいは良好なカラーの展望図で山名注記も適切である。但し、近景の山稜が実景と一致せず、また手前の建物を破線で描いているが、建物は変化が激しいため、現在の景観と一致していない（作成年次も未記載）。

西側はモノクロで精密感のある展望図だが、広範囲を描いているため、実景とは直ちには対応しない。そのため、調査時のごくわずかししかシルエットが見えない時は、図と現地との対応関係を把握するのが非常に困難である。また、こちら実景が破線で描いてあるが、建物が新たにできており、変化のない建物を基準に見ていくしかなく、現在では作成時の意図が活かされていない状況である。

（改善案）

「山都」松本を訪れる人の山岳景観への関心は高いはずである。来訪者の期待に応えることができるよう、2種類の展望図の役割分担を考え、作り直しの検討に入るべきと思う。特に近景の扱いも課題である。また、窓ガラスを利用するならまだ何種類かの展望図が設置可能である（季節や見え方の違い、拡大図）。これも検討事項に加えて欲しい。

（2016年4月8日ほか調査）

1 6 山と自然博物館展望室（松本市 アルプス公園） 四方 無料



<外観>

<展望図>

「地図中心」誌などに後日発表予定である。

（2016年4月8日ほか調査）



## 1 9 御殿場市（御殿場駅、深沢城跡付近）（静岡県御殿場市） 無料

「地図中心」誌などに後日発表予定である。

（2016年5月1、4日ほか調査）

## 2 0 浜松市（アクトタワー展望回廊） アクトタワー45階 南面、北面 有料



<アクトタワー>

<展望図>

<展望図の富士山方面>

（概況）

浜松駅に近い複合施設アクトタワー45階（地上185m）。

構造的に完全に360度の展望は得られない。

写真をベースに見下ろす形式。位置は低い。注記量は少ない。夜景も用意してある。

条件が良ければ富士山も望める。富士山までは116kmなので距離的には当然ではある。

（問題点）

写真が古く（撮影年次の記載はない）、山はあまり明瞭ではなく、近景の市街地もかなり変化が見られる。

（改善案）

1. 新たに撮影し、作り直す。その際に注記は山岳を含め、もう少し増やす必要がある。なお、おもに展望できる山は、起伏はあまり明瞭ではなく、また必ずしも著名な山ではない。丁寧に展望図を作成しなければならない。
2. 紙による展望図を用意するなどのサービスが欲しい。サイトには、好意的な書き込みも見受けられるが、何らかの工夫をしないと、リピーターを呼ぶことは難しいのではないだろうか。

（2016年4月15日調査）

## 2 1 東山スカイタワー（名古屋市） 四方 有料

（概要）

名古屋市千種区の東山動植物園に併設されている展望タワー。高さは地上134m（タワーは80mの丘の上にあるため、標高は214m）。市内を一望できるほか、天気がよければ、遠くに御嶽山や鈴鹿山脈の山並みを眺めることができる。4階、5階に展望室。

写真の上に少量の注記。山はイラストで描き、上部に描画。詳しく描いてあるように見えるが必ずしも詳細ではない。



（問題点）4階西側の展望図を例に記す。

ゆるキャライラストが描かれており、その分、図が削られている。展望図にはふさわしくない存在である。



山岳部分↓



注記量はそれなりにあるが、図と注記との間が詰まっており(引出線が短い)、どの山を指しているのかわかりにくい。図も狭い範囲に詰め込みすぎている。

「名古屋城が・・・隠れてしまいました」という追加の記載があるのは好ましいが、1箇所が良い。

(改善案)

明瞭な写真を撮りなおし、詳しい注記をつける。また、展望図も作り直し、その活用法を再検討する。イメージキャラクターは展望図のメインの場所からは削除する。

現在、5階の展望室には貸し出し用の展望図があり、頼めばコピーも貰える(そのことは十分には周知されていないようである)。この図は案内図に記されているものと同じであり(こちらはモノクロ)、必ずしも現地との照合にはふさわしくは無い。

中央アルプスなど、著名な山域については拡大図も用意したい。

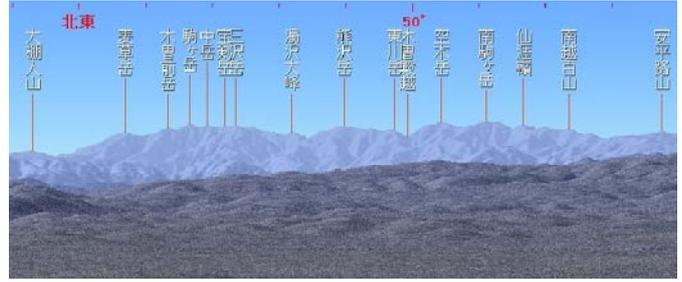
中央アルプス方面の展望図(部分)



中央アルプス方面 実写



カシ米尔3DによるCG



なお、東山スカイタワーの展望図について詳しくは「地図倶楽部カフェ」田代博の地図と富士山の教室第5回「名古屋市東山スカイタワーの展望図チェック」を参照されたい（アクセスは地図倶楽部会員であることが必要）。

(2016年4月15日調査)

## 2.2 名古屋テレビ塔（名古屋市） 四方 有料

（概況）名古屋市中区栄、久屋大通公園にある日本で最初（1954年）に完成した集約電波塔。高さ180m。地上90mにスカイデッキ（旧称：展望台）、100mに金網で囲まれたスカイバルコニー（旧称：展望バルコン）がある。

窓側に写真とCGを並べた形式。山は西と北の2箇所。



〈スカイデッキ〉

〈展望図〉

〈外観〉

名古屋テレビ塔から富士山が見えないという表示もある。ここから見えると思ひ込み主張する人もいるので、良い展示ではある。

（問題点）

拡大図（写真）が用意されており、それは良いのだが、拡大がすぎてその写真だけではどこか分からないものがある（名港トリトン、ナガシマスパーランドなど）。その際は、広域図（見ている景観に近いもの）が必要である。

（改善案）

都市部の展望台の宿命だが、手前の市街地の変化により遠景が隠されてしまう。例えば、鈴鹿、伊吹山方面がそうである。何らかの形で、撮り直しが必要である。展望図の設置方式から差し替えが可能と思われるので、適切な時期に対応をお願いしたい。

(2016年4月15日調査)

### 2 3 スカイプロムナード（名古屋市） ミッドランドスクエア 44～46階 四方 有料



<46階>

<東面の手すり>

<展望図>

（概況）

「ミッドランド スクエアのオフィス棟 44F-46Fにある屋外型展望施設です。地上 220Mで風を感じながら回遊し、名古屋の街並みをほぼ 360 度一望できます」（運営者のサイト）。「てすり」に展望図が貼り付けてある。南面 8 箇所、東面 8 箇所、北面 7 箇所、西面 1 箇所。南、東、北はいずれも同じ図柄。工夫が必要である。

（2016 年 4 月 15 日調査）

### 2 4 京都タワー（京都市） 展望室 四方 有料



<タッチパネル>

<窓ガラスへの地名記載>

<京都タワー>

（概況）

「京都市街で一番高く、地上 100 メートルにある展望室からは東山三十六峰に囲まれた古都京都の市街地が 360 度見渡せます」（京都タワーサイト）という京都タワーにある展望室。2016 年から、タッチパネル式観光案内モニターが 8 台導入された。

山岳については詳しくはないが、タッチパネル自体は「日本初の動く QR コードを読み込むことで、検索した観光情報をご自身のスマートフォンへ無料でダウンロードできる機能を装備いたしました」という新たな機能も持っており意欲的な試みと言えよう。

（<https://www.kyoto-tower.co.jp/info/2016/04/post-5.html>）

（問題点）

従来通りの、窓ガラスに地名を記載する方式もあるが、これは視点により見え方が異なるので、特にこのような円形の展望室においては悩ましい方式ではある。

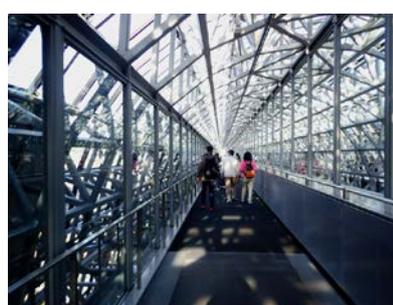
（改善案）

折角なので、タッチパネル式観光案内モニターの名称（愛称）を決めるとよい。

「東山三十六峰」を具体的に指摘するのはマニアックすぎるかもしれないが、サイトで「東山三十六峰に囲まれた・・・」とうたっているわけだから、何らかの形でそれを示す表示があれば、大きな特徴になるのではないかと。個人による優れたサイトもあり（<http://www.toshiomi.net/h36/h36main.htm>）協力を得ることができれば十分可能である。

（2016年4月22日調査）

## 2 5 京都駅ビル空中径路 （京都市） 京都駅内の通路 無料



〈見上げたところ〉

〈通路〉

〈展望図〉

（概況）

京都駅ビルの中央コンコースの地上45mに架けられたガラス張りの通路。西エリアの10階と東エリアの7階を結ぶ長さ147mの空中遊歩道。途中3箇所に展望ポイント。展望図もある。

（2016年4月15日調査）

## 2 6 ハルカス300（大阪市） あべのハルカス最上階 四方 有料



〈東面の案内図〉

〈北面の実景〉

〈60階〉

（概況）

大阪市にあるハルカス300は、日本一の高さのビル「あべのハルカス」（高さ300m）の展望台で、58階、59階、60階の三層構造となっている。京都から六甲山系、明石海峡大橋から淡路島、生駒山系などが展望可能。展望図は東西南北の窓ガラスに記す方式。東西南北に来訪者の多くは市街地を見ており、山岳への関心は少ないようだ。山岳の表記も極めて少ない。山名については、カシミール3DによるCGを内部資料として所有しており、今後の対応に期待したい。

入場者に配布されるパンフレットの展望図は、まずまずの出来である（それがあつた所自体極めて少ないのであるが）。

(2016年4月15日調査)

## 2.7 空中庭園展望台（大阪市） 梅田スカイビル 四方 有料



<見上げたところ>

<貴重な展望図>

<展望図の拡大>

(概況)

日本有数の360度開放型屋上展望台。連結超高層ビルと言われる梅田スカイビルの連結部にあり、40階の屋内展望台と屋上望台（全方位展望可能）で構成される。地上173mの高さで外気に触れた展望が可能。展望図は屋内に2箇所のみというのは残念である。スペースは十分あるので、展望図に対する配慮・用意が必要である。

(2016年4月15日調査)

## 2.8 通天閣展望台・特別展望台（大阪市） 四方 有料



<展望図>

<展望図にあべのハルカスはまだない>

(概況)

エッフェル塔を模した高さ103mの展望塔。初代通天閣は1912年に建設され、現在のものは1956年にできた二代目である。展望台は4階と5階（高さ88m）にある。最頂上部に位置する特別展望台「天望パラダイス」は地上95m。町並みを見るには、ハルカス300や空中庭園展望台よりもこの高さの方が良いかもしれない。多少なりとも高層ビルを見上げる要素が出てくるからである。展望図はあるが、注記は少ない。

なお、「天望パラダイス」は「屋上」であり、双眼鏡無料貸しはあるものの、展望図などは設置されていない。紙の展望図などの用意があつても良いだろう。

(2016年4月15日調査)

29 中央自動車道（下り）釈迦堂PA （甲州市） 屋外 無料



〈展望台（左手前）と釈迦堂遺跡博物館〉  
（概況）

〈展望図と南アルプス〉

甲府盆地の京戸川扇状地の扇中央に位置。展望図は釈迦堂遺跡博物館へ登る階段の傍の展望台に設置。ステンレス製の金属板に線画で山並みと山名が描かれている。このスタイルは高速道路の他のパーキングエリア、サービスエリアでも見られる。南アルプスから奥秩父、大菩薩方面の大展望が広がる絶好の展望ポイントだが、残念ながら展望図の線画は甘く、その景観に答える図になっていないのが残念である。

詳しくは「地図中心」2015年8月号小文「田代博の展望図採点紀行 その5 中央道釈迦堂PA」を参照されたい。

（2016年2月11日ほか調査）

30 中央自動車道（下り）初狩PA （大月市） 屋外 無料



（概況）

富士山が見える確率の高いパーキングエリア。

山名だけでなく、解説付きの展望図が設置されている。

（2016年2月11日、4月16日他調査）

31 中央自動車道（下り）八ヶ岳PA （北杜市） 屋外 無料

（概況など）

名前に反して、八ヶ岳より南アルプスが印象的なパーキングエリアである。展望図をリニューアルしたが、色々問題がある。比較的丁寧な描画だが実景とは一致しておらず、山

名注記は「八ヶ岳」以外一切ない。しかも、「八ヶ岳のイメージを示すもので、実際の風景とは異なります」という但し書きが書いてある。実際の撮影が難しかったり、対象物ができていない場合に想像を加えて描くなら、「実際の風景とは異なります」という弁解はあり得るが、車で行けて、天気の良い時に撮影すればすぐにできるところなのに、この書き方はない。詳しくは「地図中心」2016年4月号小文「田代博の展望図採点紀行 その11 中央道八ヶ岳パーキングエリア+リアクション」を参照されたい。



(2016年2月11日他調査)

### 3 2 長野自動車道（下り）梓川SA （松本市） 屋外 無料



(概況)

タイルに焼き付けたもので、過酷な気象条件にさらされているが、あまり劣化すること無く、一般的な展望図としては良質なものである。山名注記も標準的で、一般的な展望図としては、十分と言える。

(2016年2月11日調査)

## 5. おわりに

今回の調査を終え、真っ先に思ったことは、「これはマズイ」ということである。俗な表現であるが、各地の展望図の惨状を考えると、そう思わざるを得ない。

具体的な改善案も示してはいるが、個人での取り組みには限界がある。本格的なチェック（検定）となると、公的性格をもったしかるべき機関が組織的に取り組む必要があるだろう。

引き続きライフワークとしてチェックは続けていく積もりではあるが、今後はどのようにすれば、組織的な対応が可能か、という点についても考察を進めていきたいと思う。

このような機会を与えてくださった国土地理協会に御礼申し上げます。